

公明党派行政視察報告書

平成27年12月10日(木)

報告者 保坂 芳子

1、研修日 平成27年 10月28日(水)～10月30日(金)

2、場所 千葉市美浜区浜田1丁目 市町村職員中央研修所

3、クラス名 市町村議会議員特別講座Ⅱ「政策立案コース」

4、参加議員 保坂芳子 金丸幸司

5、内容 28日 講義 地域資源の再発見と地域づくり
講師 地域再生マネージャー(ふるさと財団)
齋藤 俊幸

政策立案演習(討議)

29日 講義 議会における政策立案の考え方
講師 新潟県立大学国際地域部 准教授
田口 一博

政策立案演習(討議・指導)

30日 政策立案演習(発表・講評)

講師 田口 一博

市町村アカデミー 市町村議員特別講座Ⅱ（政策立案コース）

地域資源の再発見と地域づくり 講義要旨

斎藤 俊幸 地域再生マネージャー（ふるさと財団）

地域活性化伝道師（内閣官房）

総務省地域力創造アドバイザー、地域経営の達人（総務省）

国家検定食の6次産業化プロデューサー段位認定委員（内閣府）

- ① 熊本県荒尾市（地域づくり総務大臣表彰受賞）一買い物難民
地域再生プロジェクト商品 小さな資金循環を作ろう
完成したもの 海苔、芋焼酎、ワイン、焙煎コーヒー、健康酢ドリンク
みかんジュース、乾物、梨ポン酢、納豆
- ② 高知県土佐市（農水省食品産業局長賞）マイナー魚のブランド化
うるめイワシブランド化
高知県はどこでもカツオのたたき。今更参入しても遅い。
宇佐漁港では価値がないマイナー魚、うるめイワシに着目。
商工会青年部が立ち上がり、ブランド化協議会を設立。
業務用商品開発で販路を切り開く。
- ③ 高知県本山町（ディスカバー農山漁村の宝指定 内閣官房、農水省）
6次産業、地域おこし協力隊
土佐天空の郷米
平成21年度より本山町ブランド米として販売を開始した「土佐天空の郷」
室戸海洋深層水の散布をはじめ約10%の大粒厳選による食味向上、農家の
賢明な販売促進により直接所得向上を達成し、極めて難しいといわれた高知県産米のブ
ランド化に成功した。
- ④ 秋田県由利本庄市、国際教養大学生との英語合宿 高校のグローバル化、魅力化による
生き残り競争が始まっている。
秋田県に新設された公立大学
9月入学、授業はすべて英語で行う。海外留学1年が必修科目など特色ある取り組みを
進め理想の人材育成ができ就職率100%を誇る。
カンブリア宮殿で特集されるなど今話題の大学
TOEICの学生平均900点

地方創生戦略とは何か

人口予測をし全体の方針を立て（地方創生戦略） プロジェクトで治療するようなもの
（地域再生計画）

2100年には5000万人を割り込むと言われ東京圏への一極集中を招いている。

人口減少が地域経済の縮小をよび、悪循環におちいる。

人口、経済、地域社会の一体的取り組みが大切。

人と仕事の好循環を確立することだ。

地域かん競争が始まっている。地域戦略メガコンペ

企業の競争力とは 企業が発信する情報の束が潜在的なターゲット顧客を説得し、既存顧客を納得させる力。

地域の競争力は地域が発信する情報の束に、まわりの当事者以外がささやきはじめその情報が拡散、日本全体に伝わり、納得させる力。競争力は一部門の評価。

地方創生戦略は裏の競争力強化が重要。地域の競争力とは外部に伝達される情報の束。日本が「市場創造型イノベーション」に取り組めば地域の再生・日本経済の再生にもつながる。地域の特徴をいかした新しい事業にもっと関心をもってほしい。

議会における政策立案の考え方（講義）要旨

田口 一博 新潟県立大学国際地域学部 准教授

① 政策とは何か。

目的が大切。お金ではなく人が目的。次に、何をしたいのかではなくどうしたらいいのか考
える。我が町をどうしたいのか。何を執行が考える。個別政策より総合政策を
自治体政策でなく公共政策を。議会における政策とは何か。

② 政策立案とは

何を变えたいのか。どのように変えるか。政策の担い手は住民もある市議員も担い手。
その効果を検証する方法と評価。

③ 議会における政策立案

政策革新の方法 中身は同じでも看板を変えれば政策を変えたことになる。

メタ政策システム (一つ上のことを) そうすることで町はどうなるの。

どこから町はものを買うかとかがその入り口になる。

議会内の合意調達・形成をする。

④ 議員はいかに考え、行動すべきか。

調査研究 行政にやらせる。参考人をもつ。長のいうことを聴いていいかどうか3つ4
つ案をもつこと。それを聴くこと。

政治活動 政党・自分の市のためなら大臣も使う。

政務活動 政務活動費が中心。地方創生で大切。出来上がってまえあす。現実を変え
ていける。

議会活動 議長・委員長が中心

良き住民として 兼職はできない。有力な人がなれない。

政策立案演習（討議・発表）

指導 田口 一博

全体テーマ 人口減少社会への対応と地方創生

- ① 地域での高齢世代対応— 公共サービスの在り方、家族支援等
- ② 地域での若年世代対応— 就労・結婚・子育て支援等
- ③ 人的資源を生かしたまちづくり— コミュニティの活性化、人材育成等
- ④ 我が町の特性を活かした町づくり— 産業・歴史文化・地理等

4つのテーマに分かれさらに12班で演習をした。

私はA班に所属し次のような政策を立案した。

班員 6名 北海道から九州まで女性は1人だった。

サブテーマ 美瑛町にお住まいの高齢者の交通弱者対策等

提案する政策名 「じじばば悠々ショッピング事業」

現状・課題 美瑛町は北海道の農村地帯。人口1万人。高齢化率35%。
通院買い物の交通手段の確保が課題。

政策の目的と目標 移動配送手段の確保
CCRC（高齢者居住コミュニティ）もめざす。

政策実施方法 バスの購入「国・道への働きかけ」
町内配送業者との連携で安否確認も行う。

政策の効果 美しい丘の町美瑛を終の住処として元気なうちに呼び込み人口減少に歯止めをかけたい。

政策実施に必要な資源 担当課を設ける。公共交通活性化交付金を活用する。
町内業者・商工会等との連携を図る。

始めて参加したが、興味深かった。また参加して政策立案能力を身につけたい。

